



OSAKA CITY UNIVERSITY

2016年度 5期生

科学的思考論プレゼン大会資料

PA恋愛相談所

～東縛系彼氏編～

5期生PA班 小松 東浦 吉村



大阪市立大学商学部
宮川研究室

ご注意

本資料は大阪市立大学商学部宮川研究室の所属学生がゼミ用教材資料として作成したものです。本資料内には、事実ではなく仮説として設定された内容も含まれています。また、本研究室は、内容の正確性および完全性に責任を負うものではありません。これ以外の目的で使用すること、並びに無断で複製することを固くお断りします。

この物語の登場人物

まき

大阪市の公立大学に通う世間ずれした大学生。現在、入学時から2年付き合っている彼氏がいる。素直で天然。最近彼氏の素行に悩んでいるとか・・・。

ちか

大阪府の公立大学に通う大学生。友達思いの性格で、昔からよくまきの相談相手になってきた。感情先行型。



久しぶりに再会したふたりは大学近くのカフェでランチ。
話が盛り上がる中、話題はまきの恋愛へ・・・。

ちか「そういえば最近彼氏とどうなん？」

まき「それが最近LINE見せなあかんようになって・・・。

ちよっと嫌やねんなあ。」

ちか「それは大変やなあ。別れたりしないの？」

まき「でも、はじめて付き合ったから別れたくないし・・・。」

ちか「それ、**因果関係**変やで！」

まき「因果関係？それって何？」

因果関係とは？

原因とその原因によって引き起こされた結果の関係

→原因に応じた対応策を生み出すことで問題解決につながる

今回のケース

「初めて付き合ったから別れられない」

→この発言に因果関係は存在するのか？



因果関係があるというための条件

①時間的順序が正しいこと

→時間軸上における原因と結果の順番

②相関関係が存在すること

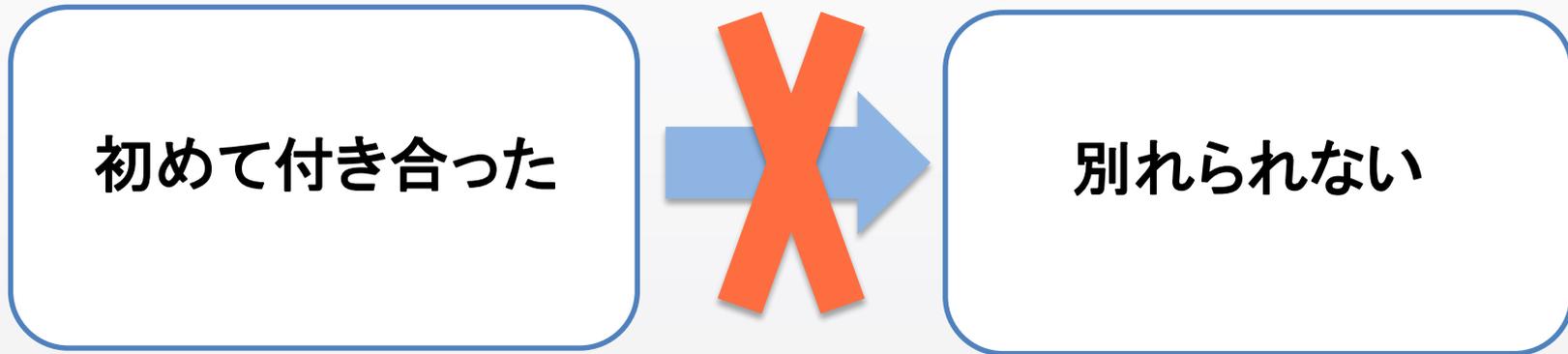
→一方が変われば他方も変わる関係

③第3因子が存在しないこと

→ある2つの事象の原因となる第3因子が存在しない



今回のケースに因果関係はない



相関関係がない
→ 因果関係が成立しない

まき「はじめて付き合い合ったことが付き合い続ける結果になるとは限らないんだね、知らなかった！」

ちか「まきちゃんの話から考えると、やっぱり彼氏とは別れたほうがいいと思う！」

まき「どうして？」

ちか「うまく言えないけど・・・。」

がっしー「そんなときは**ピラミッドストラクチャー**を使って整理してみよう！」

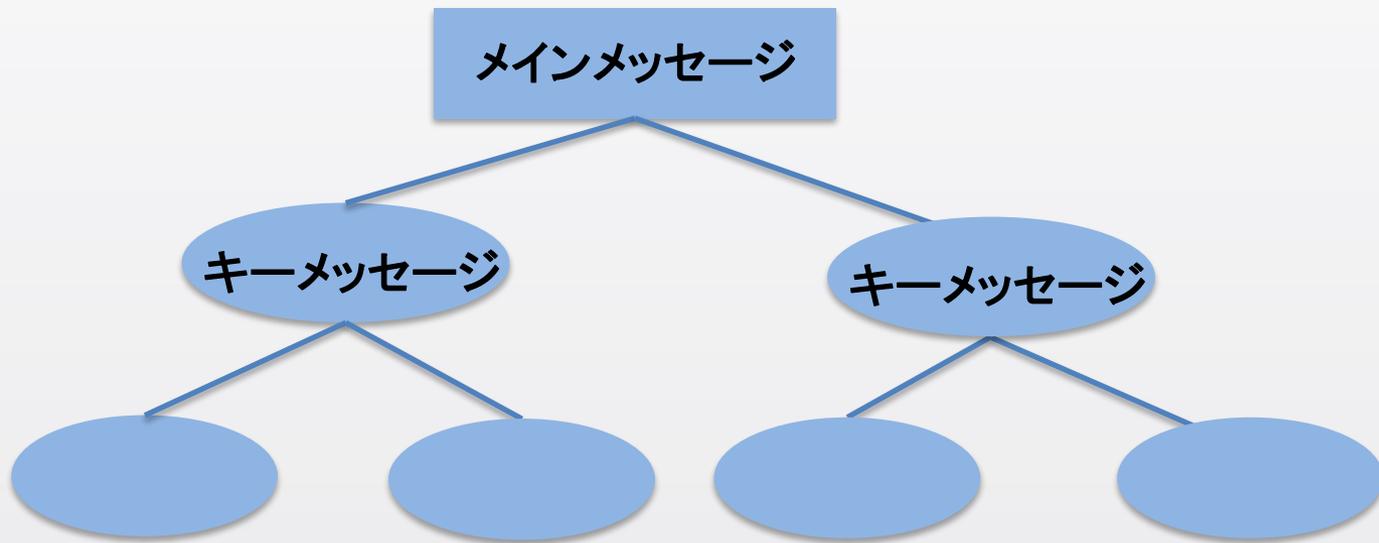
ちか「この人だれ？ピラミッドストラクチャーってなに？」



ピラミッドストラクチャーとは

結論や主張(メインメッセージ)を頂点として、その根拠をピラミッド状に下位へと配列したもの。

読み手の頭の中で起こる基本的なメカニズムを反映している。



ピラミッドストラクチャーを使うと

- ・自分の考えが明確になり、論理の妥当性が確認できる
- ・考えを伝えられた人が、相手がどのような論理に基づいてその結論を出したのか理解しやすくなる



ボトムアップ型の作り方

- 1、伝えたいポイントをすべてリストアップする
- 2、それらのポイント同士にどんな関係があるか考える
- 3、結論を導く



トップダウン型の作り方

1、疑問を書く

2、その疑問に対する「答え」をピラミッドの頂上に書く

3、「状況」を明確にして「複雑化」へと発展させる

4、「疑問」と「答え」を再確認する

→この状況、複雑化、疑問の流れを**導入部**といいます



導入部とは

Situation (状況) → 主題に関して確認されている事実

Complication (複雑化) → 疑問へとつながる次に起こった事柄

Question (疑問)

導入部はこれら三つの要素で構成される、メインメッセージとなる**Answer**(答え)を導く部分



今回のケースの導入

S: まきには彼氏がいる

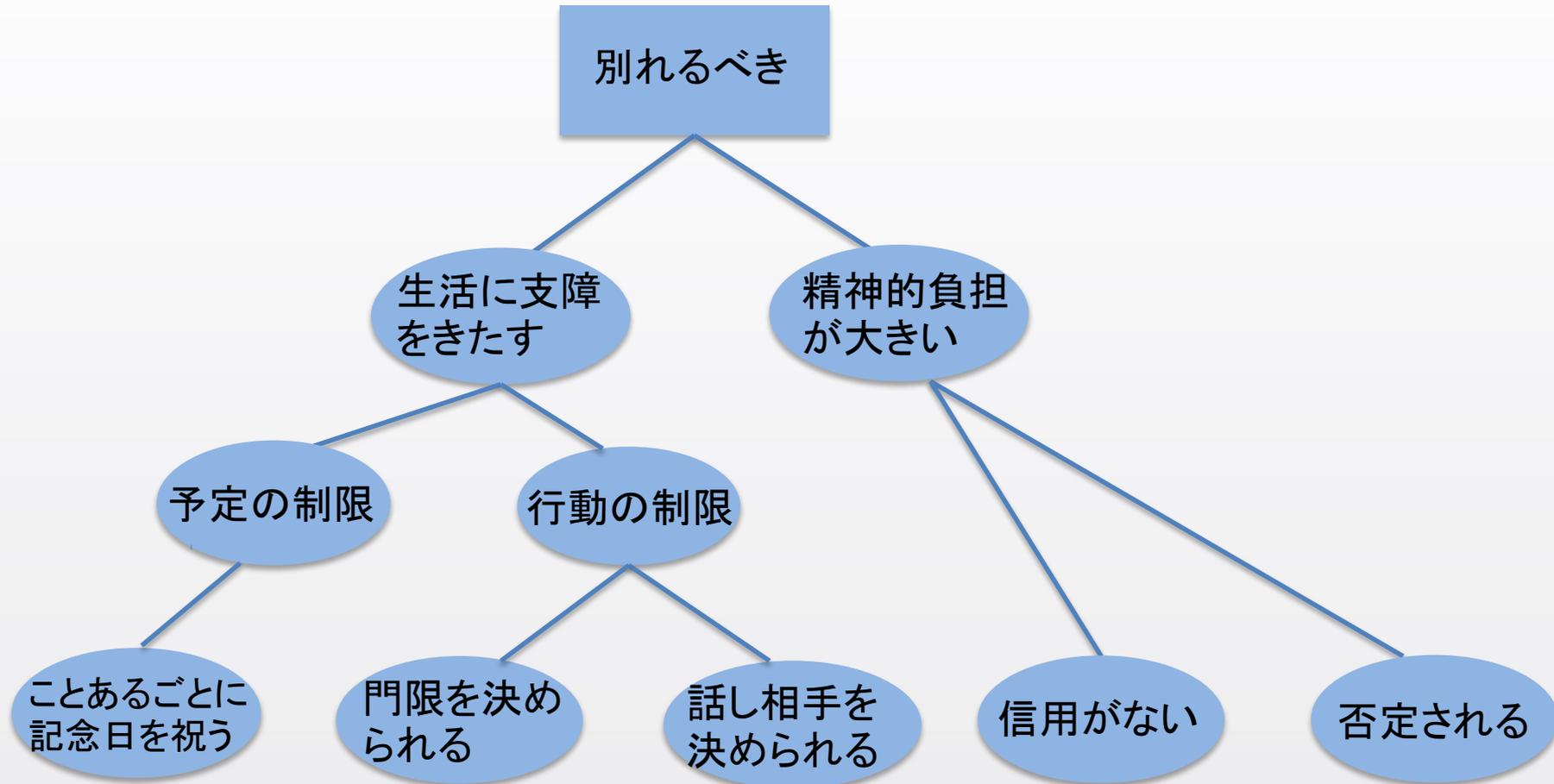
C: 彼氏の束縛が激しくなってきた

Q: 彼氏と別れるべきか？



A: 別れるべき

ちかちゃんの脳内ピラミッドストラクチャー



まき「なるほど、ちかちゃんと言いたいのはこのことだったんだ！」

ちか「そうそう！論理的に物事を考えると、自分の考えていることが正確に伝わるんだね！」

まき「ちかちゃんの言う別れるべき根拠は分かるんだけど……。やっぱりあっくんのことが好きだから別れない！」

がっしー「女ごころは難しいなあ……。」



参考文献

『考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』

ダイヤモンド社（1999）

『グロービスMBAクリティカル・シンキング』ダイヤモンド社

（2012）

